

特集 ポスターの作り方②

皆さん、学びあってるか〜い！ そして、やればできるぞー！ さて、前回に引き続き、今回もポスターの作り方についての特集です。前は、「ポスターは『見せる』メディアである」ことを具体例も挙げてお伝えしました。参考になったでしょうか？

今回は、トホホなポスターにならないために、「これだけはやってはいけない！」を特集したいと思います。「見せる」に逆行する「読ませる」レイアウト、支離滅裂な情報提示、フォントや色で内容の薄さを誤魔化すこと、論外のルール違反など、生徒作成のポスターに散見される「やってはいけない！」の数々……。注意しようね！

《修正前のポスター》

やってはいけない1

ポスターを「読ませる」のはNG！

- ◇ 何が大事な情報なのかわからない
- ◇ 図表で示す方が分かりやすいのに文章で説明している
- ◇ 説明することが全部書いてある

【右の例】文字ばかりで見づらい。見出しも目立たないうえ、要約もない。図示した方がよい部分も文章で書いている。

やってはいけない2

支離滅裂な情報提示！

- ◇ 研究の目的と結論（まとめ）はマッチしてますか？
- ◇ 研究の目的と方法は？
- ◇ データと考察は？

【右の例】説明に不必要な図版やグラフまで掲載されている！

やってはいけない3

誤魔化しポスター

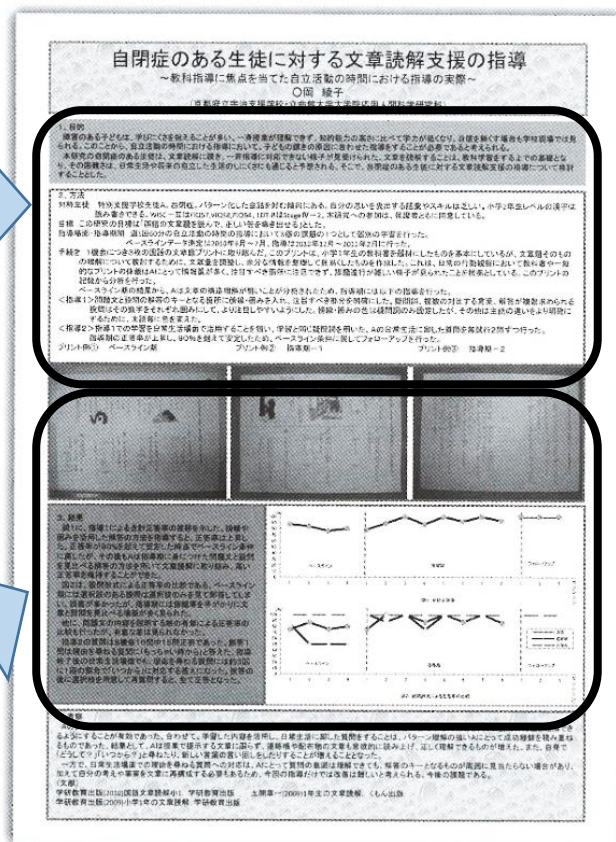
- ◇ 変なタイトルで奇をてらう
- ◇ 統一感なく様々なフォントを使う
- ◇ 統一感なく様々な色を使う
- ◇ 意味のない図表を使う

おまけ

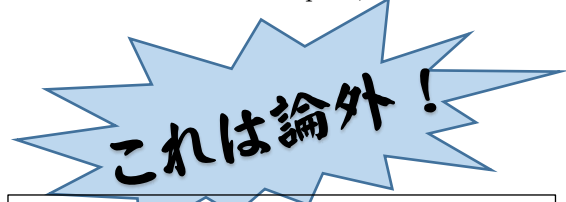
やってはいけない4

苦し紛れのルール違反！

- ◇ 論文やネット記事のコピペ
- ◇ 図表の不正盗用
- ◇ データのねつ造



【出典】宮野公樹『学生・研究者のための伝わる！学会ポスターのデザイン術』p119,化学同人（2011）



《修正後のポスター》

自閉症のある生徒に対する文章読解支援の指導

～教科指導に焦点を当てた自立活動の時間における指導の実際～

岡 綾子 (京都府立中治支援学校・立命館大学大学院応用人間科学研究科)


自閉症のある生徒は、文章読解に躓き、一斉指導に対応できない様子が見受けられた。文章を読解することは、教科学習をする上での基礎となり、その困難さは、日常生活や将来の自立した生活のしにくさにも通じると予想される。

自閉症のある生徒に対し、効果的に文章読解支援をするにはどうすればいいか?!

週1回60分自立活動の時間の指導：8つの課題の1つとして1機会に3枚の文章題プリントに取り組んだ


指導1

- 問題文と設問の解答のキーとなる箇所を傍線・囲みを入れた



指導2

- 疑問詞、複数の対応する言葉、回答が複数求められる設問はその数字を、それぞれ囲みにした

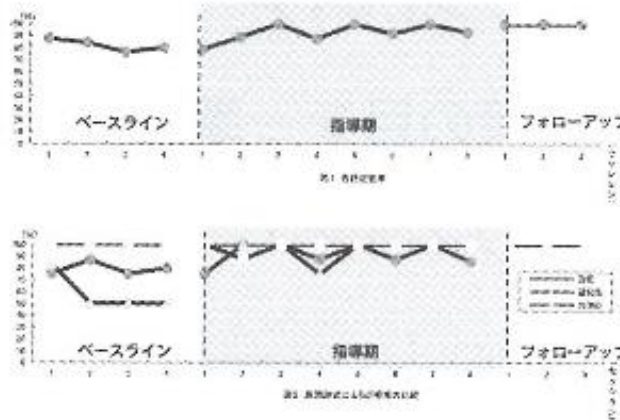


指導1と同時に実施
指導1と同じ疑問詞を用いて、日常生活に即した質問を毎試行2問ずつ行った

例
指導1「ふくろをみつけたのはだれですか？」
→「りすさん」
指導2「Aくんにおやつをくれたのはだれですか？」
→「おかあさん」

対象者

特別支援学校男子生徒A 自閉症
・パターン化した会話を好む
・自分の思いを表出する言葉やスキルは乏しい
・小2レベルの漢字の読み書きはできるが、文章読解に困難
・WISC-III FX257 VQ258 PIQ64
・QT-R Stage77-2



結論

文章読解の躓きには、自立活動の時間の指導で原因に合わせた指導が有効
学習内容を活用、日常生活に即した質問 → 成功体験の積み重ね

成果

- ・授業の課題に限らず、意欲的に読み上げ、理解できるものが増えた
- ・「どうして?」「いつから?」と尋ねることが増えた
- ・新しい言葉の言い回しが増えた

課題

- ・日常生活で、理由を答えることの難しさ
- ・解答のキーとなるものがない
- ・自分の考えや事実を再構成する必要がある

〈京都〉学研教育出版(2012)国語文章読解小1 学研教育出版

土製第一(2009)1年生の文章読解 くもん出版

学研教育出版(2009)小学2年の文章読解 学研教育出版

【出典】宮野公樹『学生・研究者のための伝わる! 学会ポスターのデザイン術』p119,化学同人 (2011)

情報が整理され、ひと目見て全体の構造がわかるように工夫されていますね!